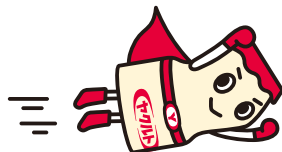


人も地球も健康に

Yakult



ヤクルト
CSR
コミュニケーション
ブック
2019



ヤクルトの創始者で医学博士の代田 ^{しろ た} 稔 ^{みのる} が京都帝国大学（現在の京都大学）で医学の道を歩みだしたのは1921年。その当時の日本はまだ豊かとはいえず、衛生状態の悪さから感染症で命を落とす子どもたちが数多くいました。

そんな現実には胸を痛めていた医学生時代の代田は、病気にかかってから治療するのではなく、病気にかからないようにする「予防医学」を志し、微生物研究の道に入りました。

そこで乳酸菌が腸の中の悪い菌を抑えることを発見、これをさらに強化培養することに世界で初めて成功しました。それが、今日「乳酸菌 シロタ株」と呼ばれる「ラクトバチルス カゼイ シロタ株」です。

その後、代田は、生きて腸内に到達し、有用な働きをする「乳酸菌 シロタ株」を、一人でも多くの人々に摂取してもらうため、有志とともに安価でおいしい乳酸菌飲料として製品化しました。こうして1935年、乳酸菌飲料「ヤクルト」が誕生しました。

世界の人々の健康を守りたい。代田 稔の情熱と発想、飽くなき探究心は、今も、脈々と受け継がれています。

ヤクルトCSRコミュニケーションブック 目次

01 ヤクルトに息づく想い

02 ごあいさつ

03 数字で見るヤクルト

05 ヤクルトのSDGsアクション

07 ヤクルトの事業活動とSDGs

09 特集1 健康 奈良ヤクルト販売

健康でイキイキとした生活をサポートする「健康応援企業」を目指して

11 特集2 地域社会 ヨーロッパヤクルト・アルメア工場

世界で展開するヤクルトの工場見学

13 特集3 環境 岡山和気ヤクルト工場

自然と共生し、環境と調和しながら生産活動を推進

15 もっと知ってほしい! ヤクルトのCSR活動

原点

代田イズム

ヤクルトでは、創始者である代田の考えを「代田イズム」と呼び、現在もすべての事業の原点としています。

創始者
医学博士
しろ た みのる
代田 稔
(1899-1982)



予防医学

病気にかかってから治療するのではなく、病気にかからないための「予防医学」が重要である。

代田イズム

健腸長寿

ヒトが栄養素を摂る場所は腸である。腸を丈夫にすることが健康で長生きすることにつながる。

誰もが手に入れられる価格で

腸を守る「乳酸菌 シロタ株」を一人でも多くの人に、手軽に飲んでもらいたい。

ごあいさつ

ヤクルトの願いは、世界中の人々に健康で楽しい毎日を過ごしてもらうこと。健康に役立つ商品や、サステナブルな社会づくりに貢献するさまざまな取り組みで、それを実現していきます。

このコミュニケーションブックでは、ヤクルトの事業活動や、SDGs^{※1}への貢献、ヤクルトの事業に関わりが深く特に重要と考える3つの領域「健康」「地域社会」「環境」における取り組み、世界各地での特色ある取り組みを取りあげています。

「人も地球も健康に」をスローガンとして、健康に役立つ商品の開発や、持続可能な社会づくりに貢献する取り組みを行ってきたヤクルトは、企業活動そのものがCSR^{※2}活動であり、SDGsの各目標への貢献に深く関連しています。SDGsの理念である「誰も置き去りにしない」は、私たちの原点である代田イズム（上記参照）につながるものがあると考えています。

今後も、企業として成長し、持続可能な社会の実現を達成するためには、お客さまをはじめとするステークホルダーの皆さまと密にコミュニケーションをとり、CSR活動をより発展させていくことが大切です。

世界中にひろがるヤクルトのCSR活動とその想いを、このコミュニケーションブックを通じて感じていただけたら幸いです。

代表取締役社長

根岸 孝成



※1 SDGs…Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標（⇒P.5参照）

※2 CSR…Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任

数字で見る ヤクルト

世界40の国と地域に健康をお届けしているヤクルトグループ。その特徴を数字でご紹介します。

ヤクルトの創業

1935年

「ヤクルト」は、1935年の創業以来、80年以上の歴史がある世界中で親しまれている商品です。

また、長年にわたる豊富な研究実績を持ち、生命科学を追究しています。

かつては
ガラスびんに
「ヤクルト」を
充填していました。



世界中で1日に飲まれている乳製品本数

4,067万本

うち国内**954**万本

(2018年度1日当たり平均)

「ヤクルト」は、
世界40の国と地域で
販売されています。



おなじみの
「ヤクルト」容器の
2011年1月に
立体商標として
認定されました。

展開している国・地域

ヤクルトが進出している
国と地域の販売対象人口

約22億人

(2018年度)

世界人口のおよそ3分の1を
カバーしています。
これからも成長は続きます。

1本あたりに含まれる乳酸菌の最高値

1,000億個

(2019年10月現在)

2019年10月に発売された
「Yakult(ヤクルト)1000」※には、
1ml当たり10億個の
「乳酸菌 シロタ株」が含まれており、
これはヤクルト類で最高値です。

※関東地区1都6県で先行発売



工場見学者数

⇒P.11-12

日本

(13工場合計)

約28万人

(2018年4月～2019年3月)

海外

約56万人

(2018年1月～12月)

「ヤクルト」のおいしさや体にいい秘密、
ヤクルトの歴史などを楽しみながら学べる
工場見学を各地で実施しています。



ヤクルトレディによる地域貢献 ⇨P.15

●愛の訪問活動

約**2,800**人の

ヤクルトレディが

約**38,000**人の

高齢者のお宅を訪問

●地域の見守り・防犯協力活動

約**26,000**人の

ヤクルトレディが

878の自治体・

警察・消防などと
協力して活動

(2018年度)



健康増進・スポーツ振興 ⇨P.16

●現役選手による野球教室

参加者数
(実施回数)

1,014人 (10回)

●OB選手による野球教室
(つばめスポーツ野球教室)

参加者数
(実施回数)

4,201人 (24回)

(2018年度)



世界に広がるヤクルトレディの人数

約**8**万人

(2018年度)



世界で8万人以上のヤクルトレディが、
健康をお届けしています。

出前授業 ⇨P.6

参加者数
(実施回数)

日本

約**29**万人

(約4,000回)

海外

約**316**万人

(約41,000回)

(2018年度)



健康教室 ⇨P.6

参加者数
(実施回数)

日本

約**37**万人

(約12,500回)

海外

約**656**万人

(約120,700回)

(2018年度)



ヤクルトのSDGsアクション

SDGs(持続可能な開発目標)って何？

今、地球は経済や社会、環境の面でさまざまな課題を抱えています。現在のまま人口増加・消費が進むと、2030年には地球が2つ必要になるといわれています。

2015年9月に国連サミットで採択されたSDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)は、地球の限界を超えないよう、また、貧困をなくし、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指すものです。2030年までに達成すべき17の目標と、それらを実現するための具体的な169のターゲットを設定しています。

SDGs達成のためには、各国・地域の政府だけでなく企業、市民社会などが協力することが不可欠です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



特にヤクルトグループと関係が深い目標 **3 5 8 12 13**

ヤクルトのCSR重点3領域とSDGsとの関わり

ヤクルトグループは企業理念において、事業活動を通じ「世界の人々の健康に貢献する」ことを目指しています。また、人が健康であるためには、人だけではなく周りの水、土壌、大気などすべての地球環境、動植物が健康でなければならないと考え「人も地球も健康に」をコーポレートスローガンとして制定しています。さらに「地域社会の問題解決に貢献すること」「地域社会からの『信頼』を築きあげること」を事業活動のベースにおいてきました。

これらのことから、「健康」「地域社会」「環境」をCSR重点3領域としています。

CSR重点3領域とSDGsの各目標との関わりは右の図のとおりです。



TOPIC 第2回ジャパンSDGsアワード特別賞「SDGsパートナーシップ賞」を受賞

2018年12月、ヤクルト本社は第2回「ジャパンSDGsアワード」で特別賞「SDGsパートナーシップ賞」を受賞しました。

乳酸菌飲料の生産・販売を通じ、長きにわたり世界各地で人々の健康的な生活の実現に貢献していることや、ヤクルトレディによる宅配を、健康情報の提供等を行いながら商品をお届けする日本発のモデルとして海外へ展開し、健康で楽しい生活づくり、健康意識の向上、ひいては海外の就労や女性の活躍等にも貢献していることが評価されました。

こんな取り組みでSDGsの達成に貢献しています！

「出前授業」と「健康教室」で健康で楽しい生活を応援

貢献するSDGs

3 すべての人に
健康と福祉を



あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する

ヤクルト本社の支店や各地域の販売会社の社員が小学校などに出向き、腸の大切さや「いいウンチ」を出すための生活習慣について、模型などを活用して、わかりやすく説明する「出前授業」を行っています。

大人向けには、各地域の販売会社社員等が講師となり、センター（ヤクルトレディの販売拠点）や公共施設等を利用して、腸の大切さやプロバイオティクス、季節に流行する疾患等、幅広いテーマで「健康教室」を開催しています。



出前授業
(奈良ヤクルト販売)



健康教室
(ブラジルヤクルト)

世界各地で活躍するヤクルトレディ

貢献するSDGs

5 ジェンダー平等を
実現しよう



ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る

8 働きがいも
経済成長も



すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する

ヤクルトといえば、商品を自宅や勤務先に届けてくれる「ヤクルトレディ」。1963年にスタートしたこの独自のシステムは、海外にも広がり、事業を拡大する大きな原動力になっています。

女性の社会進出が進んでいない地域においても、きめ細かなフォローで就労を後押し。各地で、イキイキと働くヤクルトレディの姿が見られます。



ヤクルトレディ(メキシコヤクルト)

プラスチック資源循環に向けた容器包装の工夫

貢献するSDGs

12 つくる責任
つかう責任



持続可能な消費と生産のパターンを確保する

海洋プラスチックごみ、温暖化、資源の枯渇などが世界的な問題になっています。そこでヤクルトでは、プラスチック容器包装の資源循環を推進する取り組みを行っています。

2019年1月には、「プラスチック資源循環アクション宣言」を発表。2025年までに、環境に配慮した容器包装の基礎技術を確認して植物由来の成分や分解されやすい素材への置き換えに着手し、2030年までに、最大限の置き換えを図ることを目指しています。



軽量化したPET容器を採用した商品



厚みを減らしたプラスチックラベルを採用した商品

生産におけるCO₂削減を推進。太陽光発電も

貢献するSDGs

13 気候変動に
具体的な対策を



気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る

本社工場やボトリング会社では、環境に配慮した設備の導入や、照明のLED化、効率の良い生産などでCO₂削減を推進しています。クリーンで再生可能なエネルギーである太陽光発電も積極的に取り入れています。

さらに、毎年5月に工場など全国14か所で植樹活動を実施しています。



工場屋上に設置された太陽光発電
(岡山和気ヤクルト工場)



植樹活動
(兵庫三木工場)

ヤクルトの事業活動とSDGs

企業理念「私たちは、生命科学の追究を基盤として、世界の人々の健康で楽しい生活づくりに貢献します」の実現に向けて、研究・開発から皆さまのお手元に商品が届くまで、さまざまな活動に取り組んでいます。

研究・開発

予防医学や健腸長寿に貢献する研究開発に取り組み、研究成果を食品・医薬品・化粧品へと応用しています。



2018年度 Highlight

宇宙で活躍する「乳酸菌 シロタ株」!?

ヤクルトは、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA) と共同で、宇宙環境における乳酸菌のはたらきを検証する「ヤクルト宇宙プロジェクト “YAKULT SPACE DISCOVERY”」を実施しています。2018年度は、宇宙環境で乳酸菌 シロタ株を長期保管してもプロバイオティクス機能が維持されることが確認できました。



調達

脱脂粉乳・砂糖・香料等の原材料を公正な取引を通じて調達しています。



2018年度 Highlight

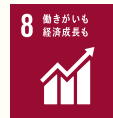
取引先103社に対し CSR調達アンケートを実施

「ヤクルトグループCSR調達方針」に沿って、取引先と連携・協力しながら、人権、労働、環境、腐敗防止などに配慮した調達を推進しています。2018年度は、取引先103社に対してCSR調達アンケートを実施。各社のCSR調達の取り組み状況を把握することができました。アンケート結果は回答各社にフィードバックしており、各社のCSRの意識を高め、自主的な取り組みを促しています。



販売

商品とともに、商品の正しい知識や健康に役立つ情報をお客さまにお届けしています。



2018年度 Highlight

「食育推進企業・団体」に認定

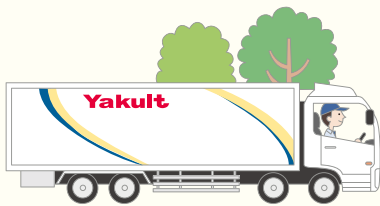
健康情報をお届けする「出前授業」「健康教室」(⇒P.6)の活動が食育活動として評価され、2019年4月に一般社団法人日本食育学会「食育推進企業・団体」に認定されました。



健康教室(インドネシアヤクルト)

物流

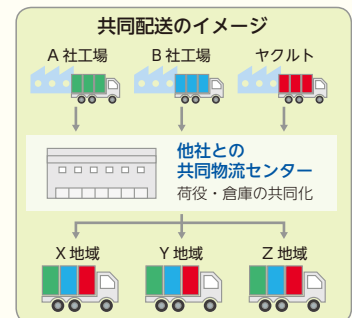
エコドライブを徹底し、環境負荷が少ない輸送方法を選択することで、商品輸送時のCO₂排出量を削減しています。



2018年度 Highlight

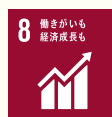
中部エリアで他社メーカーとの共同配送を開始

ヤクルトでは、他社メーカーとの共同配送を推進し、物流効率化とCO₂排出量削減を図っています。2018年度は中部エリア3か所において新たに他社メーカーとの共同配送を開始しました。



生産

限りある資源を効率的に利用し、お客さまに「安全・安心」で高品質な商品を安定的に届けるため、人にも環境にも配慮した工場運営を行っています。



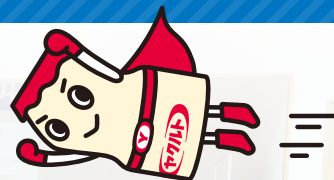
2018年度 Highlight

省エネタイプの容器製造用成形機を導入

富士裾野工場など5工場で、ヤクルト類や「ジョア」の容器を製造する成形機を省エネタイプに切り替えました。



電動成形機(岡山和気ヤクルト工場)



健康でイキイキとした生活をサポートする「健康応援企業」を目指して

奈良県全域を販売エリアとして、地域の皆さまに商品をお届けしている奈良ヤクルト販売株式会社。健康について楽しく学ぶ健康教室や出前授業など、地域の健康をサポートするさまざまな活動をご紹介します。

貢献するSDGs



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を促進しよう

3: 健康に役立つ商品の販売・お届けと健康情報の発信を通じて、地域の皆さまの健康づくりに貢献します。
4: 子どもから高齢の方まで、さまざまな世代に正しい健康情報を提供します。
5: ヤクルトレディの就労機会提供を通じて、女性のエンパワーメントに貢献します。

社長メッセージ

センターで、街のあちこちで。
商品の価値とともに、
正しい健康知識をお伝えしています

当社は2007年に策定した経営スローガン「地域に密着した健康応援企業」のもと、商品のお届けとその価値普及を推進しています。大人向けの健康教室、児童向けの出前授業を通じて健康情報の発信にも力を入れており、年間実施回数は700回を超えています。

複数のセンター*で専用のセミナールームを整備し、食生活、運動なども含めた広い意味での健康情報をお伝えする場になっています。2015年からは、愛飲者の方を対象に、外部施設で実施する「健康フォーラム」も始めました。大学の先生にご講演いただいたり、音楽のコーナーを設けたりと盛りだくさんの内容で、毎回好評をいただいています。

また、お客さまの健康を応援するためには、まず従事者が健康でイキイキとしていることが大切です。ヤクルトレディに対しては、乳がん検診費用の全額助成を行っています。社員に対しては、ヤクルト健康保険組合の「健康企業宣言」に沿って、健康増進活動に力を入れています。

今後も、社員とヤクルトレディが「健康応援団」となり地域の健康の増進に貢献していきます。

※センター：ヤクルトレディの販売拠点

奈良ヤクルト販売株式会社
代表取締役社長

谷川 千代則

警察署と防犯協定を締結

奈良県は一人暮らしの高齢者の増加に伴い、特殊詐欺が多数発生しています。宅配で地域を巡回するヤクルトレディの活動は、それ自体に犯罪抑止効果がありますが、地域の安全を一層守っていくために警察署と防犯協定を結んでいます。署主催の防犯講習会にヤクルトレディが参加し、防犯チラシや防犯ステッカーをお客さまにお渡しして注意喚起しています。

そのほか、自治体とも連携して防犯活動を実施しています。

防犯協定

18件

(2019年3月現在)



西和警察署から「依頼済証」を交付されるヤクルトレディ

市町村への寄付

地域の皆さまの健康の保持増進に役立てていただくために、市町村への寄付を実施しています。2018年は奈良市に100万円、五條市に50万円を寄付。今後も継続していきます。

寄付金総額

300万円

(2019年3月現在)

全国初となる、車両まるごと「ヤクルトマン」のイラストをラッピングしたタクシーが奈良市に登場！インスタ映えすると修学旅行生にも大人気！
(協力：奈良近鉄タクシー株式会社様)



健康教室・出前授業の名物講師に聞きました

楽しく、ためになる健康教室で お客さまを笑顔に

私は、高齢者クラブや婦人会などから依頼を受けて実施する健康教室の講師をしています。長年講師を務めて感じたのは、お客さまは説明を聞くことより、会話をするのが好きだということ。Q&A形式で進行したり、健康知識を一つ一つお伝えするのではなく、なるべくストーリーにするなどの工夫をしています。「今日は一生分笑った!」などと声をかけていただくこともあり、とてもうれしいですね。健康に関する鋭い質問をいただくこともありますが、健康管理士として正確にお答えするように心がけています。



CS推進室 リーダー
樋口 善輝 (健康管理士)

参加型のプログラムで、 おなかの健康を楽しく学ぶ出前授業

小学校、幼稚園、保育所、学童保育で行う出前授業の講師を務めています。ヤクルトマンのアニメを観る前にキャラクターを呼ぶ練習をしたり、ヤクルトマンの歌を簡単な手振りをつけて歌う練習をしたりして、子どもたちに楽しんで参加してもらるようにしています。学校から寄せ書きをいただくこともあり、「私もヤクルトの仕事がしたいと思いました」なんて感想もあって、ちょっとびっくり、とてもうれしいです。



CS推進室
山道 やよい

2018年度の実施回数

健康教室

657回

出前授業

111回

1日平均3回実施しています!※

※開催回数÷営業日



ヤクルトレディより

お客さまの健康と笑顔のために



ヤクルトレディ
佐々木 芙路さん
(榎原北センター所属)
ヤクルトレディ歴 約3年

幅広い年齢のお客さまに合わせた健康情報の提供やお話をするよう心がけています。お客さまに、もっと笑顔で健康になっていただくためにさまざまな工夫をしていて、オリジナルの手書きのお便り「ふじだより」がその一つです。セールのお知らせだけでなく、楽しく読める季節の健康情報を入れています。

2019年の「ヤクルト400」発売20周年企画では、私宛てにたくさんのメッセージをいただき、あらためてお客さまとの心のつながりが感じられて、とてもうれしかったです。

奈良市役所様から

地域の健康づくり・食育啓発のモデル企業として 継続した活動を期待します

「奈良市食育ネット」参加企業として、毎年数多くの健康教室・出前授業を実施されています。管理栄養士・健康管理士などの有資格者が講師となっていること、豊富な実績とそれを支える強固な体制を実現されていることが特徴です。

2018年3月には奈良市に100万円の寄付をいただき、食育啓発パンフレットの制作のほか、高校生を対象とした食育に関する意識調査に活用させていただきました。

今後も活動を継続されて、ノウハウを他の団体にも伝えていただくとともに、子どもから高齢者まで幅広い世代に関わられているという特徴を活かし、他の団体とコラボレーションされることを期待しています。

奈良市観光経済部 農政課
課長補佐 森 真理 様
ブランド推進係 管理栄養士
谷田 順子 様



地域の方から

ユーモアあふれる健康教室は 地域で大人気です

ヤクルトさんの健康教室は、ユーモアを交えながらもポイントをうまく押さえていて、楽しみながら参加することができます。たとえばストレッチ体操でも、1分もかからない簡単なものを楽しく教えてくれて、すぐに覚えられます。いろんなプログラムがあり、何回見ても飽きることがありませんね。とても人気がある教室なので、これからもぜひ、継続してほしいと思います。

奈良県橿原市
耳成地区 葛本町担当
民生委員
西田 孝之 様

奈良県橿原市
葛本町自治会
会長
河合 秀和 様



特集2 地域社会

ヨーロッパヤクルト・アルメア工場

世界で展開する ヤクルトの工場見学

ヤクルトは、日本の工場で培った「安全・安心」で高品質な商品の生産技術を各地に移転しています。現地での生産・販売を基本とする「現地主義」に則って地域に根差した事業を展開しており、工場見学を地域との重要なコミュニケーションの一つと位置づけています。

ヨーロッパヤクルト・アルメア工場の工場見学プログラムをご紹介します。

貢献するSDGs

12 つくる責任
つかう責任



4 質の高い教育を
みんなに



8 働きがいも
経済成長も



12: 環境に配慮して「安全・安心」で高品質な製品を製造し、その情報を開示することで、来場者に持続可能な消費とライフスタイルを啓発します。

4: 見学者にヤクルトの商品や生産工程を学んでいただくとともに、正しい健康情報を提供します。

8: 従業員が工場見学の案内係となることで、仕事への責任感とやりがいの醸成につなげています。

楽しみながらヤクルトの想いや生産工程を学べる「見せる工場」

工場見学は、ヤクルトに興味を持つ皆さまに、当社の理念や商品、生産工程をじっくりとご説明できる貴重な場です。各地で、楽しみながらヤクルトの想いや生産工程を学べる「見せる工場」を目指しています。

ヨーロッパヤクルト・アルメア工場は、1996年の生産開始以来20万人以上の見学者を受け入れています。児童・生徒や地域の皆さまをはじめとした一般消費者はもちろん、取引先の皆さまに対しても、定期的に工場見学にご招待しています。

工場見学ツアーでは、従業員が案内係となり、約1時間半にわたり丁寧に解説しながら各工程を案内します。工場には見学のための専用通路を設けており、生産ラインを間近に見ることができます。

工場見学を通じて、これからも消費者、取引先をはじめとしたステークホルダーの皆さまと深い信頼関係を築いていきます。



ヨーロッパヤクルト・アルメア工場

年間見学者 **約1万5千人**

これまでの見学者 **20万人以上**

海外工場全体

年間見学者 **約56万人**

(2018年1月～12月)

【参考】国内工場全体
2018年度工場見学者 **約28万人**

(2018年4月～2019年3月)

基本情報

所在地	Schutsuisweg 1, 1332 EN Almere, The Netherlands
敷地面積	15,002㎡
従業員数	70名
生産開始時期	1996年3月
生産品目	ヤクルト、ヤクルトライト、ヤクルトプラス(各65ml)
供給エリア	欧州13か国

TOPIC 地域の皆さまに感謝の気持ちを込めて開催する工場祭

ヤクルトは世界各地の工場で行工場祭を実施しています。

2004年に生産を開始したマレーシアヤクルトでは、「日本風」のイベントやテナントで、遊びと学びの両方を提供する工場祭を毎年実施しています。

お寿司づくり体験、コスプレコンテストなどのイベントのほか、日本のお祭りでおなじみのヨーヨー釣り、スーパーボールすくい、たこ焼きなどの屋台が立ち並びます。工場見学ツアーも開催されており、毎年大盛況です。

地域の皆さま、愛飲者の皆さまとの交流を深めるだけでなく、「ヤクルト」が「安全・安心」に製造されていることや菌の科学性を訴求する貴重な機会となっており、ブランドイメージの向上にもつながっています。



マレーシアヤクルトの
工場祭の様子

アルメア工場の見学ルート

私がご案内します!

start!

ヨーロッパヤクルト
アルメア工場
Corporate Communication
Department
Ms. Marjan
Kuipers-Klinkenberg

1階エントランス

エントランスに集合した工場見学者を案内係が歓迎します。



2階PRホール

PRホールでは、会社概要や企業理念、生産している商品、菌のはたらき、生産工程について説明します。
ここで商品も試飲いただけます。



ヤクルトの歴史や、「ヤクルト」が家庭に届くまでのひみつを楽しく学べるオリジナル動画も上映!

2階見学通路

品質管理室

生産工程の見学は品質管理室からスタート。生産工程と品質管理の徹底について説明します。また、「ヤクルト」の原材料をご紹介します。また、乳酸菌 シロタ株を顕微鏡でご覧いただけます。



製造室

「ヤクルト」の培養工程をご説明します。大容量のタンクを間近に見ることができます。



充填室

高速で「ヤクルト」の内容液が充填されていく様子をご覧いただけます。



Goal!

お見送り

見学者を出入口までご案内して、お礼の言葉でお見送りします。見学者全員にヤクルト製品のお土産を差しあげています。



併設ショップには、ここでしか手に入らないオリジナルグッズがいっぱい!

フードバンクにヤクルトを提供

ヨーロッパヤクルトでは、オランダ・アルメアの恵まれない人々に対する支援機関「VLA」に、賞味期限が近づいた商品を提供しています。
2018年の総本数は21,840本となりました。



フードバンク内の冷蔵庫に格納された「ヤクルト」

見学されたお客さまから

〈地域の住民より〉菌のはたらきや商品の長がよくわかりました。アルメア市にヤクルトのような健康に役立つ素晴らしい会社があることを感謝しています。

〈学生より〉工場見学ができて良かったです。安全性の高い生産工程はとても印象に残りました。私は微生物について勉強中なので、説明が参考になりました。

〈取引先より〉ヤクルトの価値創造ストーリーはとても明快で美しいと思います。「ヤクルト」をヨーロッパのすみずみまで販売※していることも興味深いです。

※2019年3月現在 域内13か国で発売

特集3 環境

岡山和気ヤクルト工場

自然と共生し、 環境と調和しながら 生産活動を推進

株式会社岡山和気ヤクルト工場は、2014年オープン
の乳製品工場です。環境に配慮した取り組み
をはじめとしたさまざまな活動をご紹介します。



貢献するSDGs



「安全・安心」で高品質な製品を製造する
とともに、効率的な生産や環境配慮型設
備により、CO₂排出量や廃棄物排出量、
水使用量の削減を実現しています。
また、工場周辺の清掃活動、適正な排水
処理を通じて、生物多様性の保全に貢献
しています。

基本情報

所在地	岡山県和気郡和気町 田原下字高柳269
敷地面積	62,011.84㎡
従業員数	約160名
生産開始時期	2014年11月
生産品目	Newヤクルト、 ヤクルト400LT
供給エリア	中四国、近畿、中部、 東日本(一部)

社長メッセージ

生産効率の向上と 従業員一人ひとりの環境意識向上で さらなる環境負荷軽減を目指す

緑あふれる自然豊かな場所に位置する岡山和気ヤクルト工場は、乳製品の調合・充填・包装・出荷までを担う工場です。HACCP^{※1}、ISO 9001^{※2}、ISO 14001^{※3}に基づき高いレベルで製品の品質と安全性を確保しています。

設計にあたっては、製品品質と作業効率の考慮はもちろんのこと、さまざまな環境配慮型設備を備えることでCO₂の削減や、水使用量の削減を目指しました。

当工場の活動の軸は「心技体+道具」の充実です。「心」は代田イズムや企業理念、「技」は知識や技法、「体」は従業員の健康や労働安全、「道具」は設備やツールを表しています。「技」においては、ISO規格に基づいたPDCAをさまざまなレベルで進めています。また、ISO 14001を参考に、従業員一人ひとりが、業務における自分の環境面での役割を自覚できるよう環境教育を推進しています。「道具」においては、機械の生産効率を向上させることで品質の向上と省エネルギー化を推進しています。

工場を効率的に稼働させ、環境活動を推進するのは機械ではなく人です。「心技体」を充実させ、計画に基づいた教育だけでなく、日々の仕事の中で、先輩から後輩へどんなささいなことでも技術や経験を少しずつでも伝えていける風土を醸成し、工場全体のレベルアップを図っていきます。

株式会社岡山和気ヤクルト工場
代表取締役社長

三好 弘祐

※1 HACCP (Hazard Analysis and Critical Control Point) :
製造工程全体の衛生管理を徹底することで品質を保証するシステム
※2 ISO 9001 : 品質マネジメントシステムの国際規格
※3 ISO 14001 : 環境マネジメントシステムの国際規格

作業環境の向上のために

人が作業しやすく、負担の少ない環境の整備に取り組んでいます。ヤクルト容器をつくる「成形室」では、給排設備のほか空調を導入して、作業しやすい室内温度を保っています。成形室でできた容器が送られ、「ヤクルト」の内容液を注入・密封する「充填室」では、壁に吸音材を貼りつけて騒音レベルの改善を行っています。



空調を備えた成形室

健康への取り組み

従業員の心と体の健康のために、健康に関する各種講習会の開催やがん検診の推進、活発なコミュニケーションによるメンタルヘルスケアに取り組んでいます。2018年6月には健康保険組合連合会東京連合会から健康優良企業(銀の認定)に認定されました。

また、「和気町健康づくり推進計画」策定に参画し、工場での健康増進の取り組みを紹介しています。



2019年5月 工場祭の日に撮影

岡山和気ヤクルト工場 ニコポイント

Pick up 1

再生可能エネルギーの利用 (太陽光発電)

事務棟正面の壁面、駐車場の屋根、事務棟・生産棟の屋上に太陽光パネルを設置しています。晴れの日が多いという地域特性を活かして、効率の良い発電ができています。

発電量

312,497 kWh

(2018年度)



屋根に採光型の太陽光発電パネルを設置し、木漏れ日を連想させる駐車場



工場見学用通路で発電状況を確認できる

Pick up 2

CO₂排出量の削減 (省エネ設備の導入)

さまざまな環境配慮型設備により、生産時のCO₂排出量を削減しています。省エネタイプの成形機への切り替えを推進しているほか、冷却水製造工程では蓄熱システムを採用して、夜間電力を利用し電力のピークシフトに寄与しています。照明はほぼ全室でLEDを使用し、人の出入りが少ない箇所では人感センサーを設置して節電しています。

CO₂排出量

6,457 t-CO₂

(2018年度)

Pick up 3

高レベルな排水処理と 水使用量の削減

工場で発生する洗浄水などの排水は、高濃度嫌気性処理とヤクルトロ材[※]によって処理されています。河川に放流する水質は法規制で定める水質基準よりさらに厳しい自主基準を定め管理しています。また、排水処理場で回収した排水や、雨水の一部をろ過・貯留し、工場緑地の散水に利用することで水使用量そのものも削減しています。

※ ヤクルトロ材：ヤクルトの容器の底を抜いたもの。ヤクルトロ材に棲みつく微生物の力を利用して、排水を浄化することができる



浄化水槽の中で
「ヤクルトロ材」が活躍中!

ヤクルトロ材を活用した工場排水処理について詳しくは
<https://www.yakult.co.jp/csr/environment/water/index.html>

※写真はイメージです

Pick up 4

徹底したごみの分別とリサイクル

廃棄物は紙・アルミ・プラスチックなどに細かく分類され、リサイクルすることでゼロエミッションに向けた取り組みを推進しています。

ごみ分別ステーション



Pick up 5

緑化活動

毎年「グリーンウェイブ」に参加し、2017年・2018年にはソメイヨシノを植樹しました。



環境推進委員会より



施設管理係長
環境推進委員会
事務局
栄留 正利



副参事 兼
施設管理課長
環境推進委員会委員長
谷本 豊三



ヤクルト本社のCSR行動計画に基づき環境計画を策定し、CO₂排出量、廃棄物排出量、水使用量の削減に努めています。工場周囲をはじめ、近くを流れる吉井川周辺の清掃や、全社員に対して環境法令に関する教育、作業時の環境配慮の啓発をするほか、河川に有害物質が流出したケースを想定した訓練教育も年1回実施して、工場が地域に与える環境影響の意識づけを行っています。

もっと
知ってほしい!

ヤクルトのCSR活動

世界各地で特色あるCSR活動を行っています。
2018年度の主な取り組みや出来事を地域別にご紹介します。



日本

路面電車の車内で「食育教室」を開催 (鹿児島ヤクルト販売)

鹿児島市交通局のご協力のもと、鹿児島市内を走る路面電車内で「食育教室」を開催しました。出前授業のプログラム「ウン知育教室」を活用したもので、飾りつけをした路面電車は市内で注目を集めました。



千葉県立千葉盲学校中学部で 「おなか元気教室」を実施(千葉県ヤクルト販売)

盲学校で出前授業を行うのは初めての試みだったため、学校と事前打ち合わせを重ね、スライドの文字を大きくしたり、学校の皆さまにテキストを点字にいただいたりと工夫を重ねました。生徒からは、後日点字によるお礼の手紙が届きました。



海外ジャーナリストツアーを実施 (ヤクルト本社)

プロバイオティクスの機能、日本の食習慣や食育、ヤクルトの事業などを学んでもらうことを目的に、2004年から「海外ジャーナリストツアー」と称して、ヤクルトが事業を展開する各地域のジャーナリストにヤクルト本社取材してもらう取り組みを実施しています。2018年は8か国から計19名が参加しました。



47年目を迎えた「愛の訪問活動」



「愛の訪問活動」は、ヤクルトレディが商品をお届けしながら、一人暮らしの高齢者の安否を確認したり、話し相手になるという活動で、1972年から続けられています。

2005年からは敬老の日にお花を贈呈しています。2018年はカーネーションにメッセージカードを添えてプレゼントしました。

(写真：両毛ヤクルト販売)

地域の見守り・防犯協力活動

担当地域に毎日商品をお届けしているヤクルトレディは、地域のすみずみまで目が届くことから、全国の自治体、警察などと連携して地域の「見守り」や「安全・安心」へのお手伝いをしています。お客さま宅に異変を感じたヤクルトレディが警察署に通報し、署員がお客さまを発見・救助した等の事例もあります。

2019年3月現在で、全国103社※の販売会社で組織がつくられ、地域の「安全・安心」に貢献しています。

※ホールディング会社傘下の販売会社を含む



北海道胆振東部地震の被災地への支援 (札幌ヤクルト販売)

2018年9月に発生した北海道胆振東部地震を受けて札幌市内に設置された避難所に、ヤクルト商品を提供しました。翌年2月にはこの取り組みに対し札幌市から感謝状を授与されました。



「第4回ヤクルトっ子絵のコンクール」を開催(埼玉北部ヤクルト販売)

1歳から就学前までのヤクルトレディのお子さんたちを対象に「働くお母さん」をテーマに絵を募集するコンクールです。10名が表彰され、表彰式終了後には「親子ヨガ体験教室」を楽しみました。



広島県朝ごはん推進モデル事業に協力(山口県東部ヤクルト販売)

広島県では、すべての児童が朝食を食べることにより、健康的な生活リズムや食習慣を確立し、確かな学力を育む環境を整えるため、小学生に無料の朝食を提供する取り組みを始めています。山口県東部ヤクルト販売では「ヤクルト400」を提供しました。

健康増進や子どものすこやかな成長を支援

ヤクルト球団とも連携し、本社・販売会社にて各種スポーツ活動を行っています。

- ジュニア陸上教室 ●ヤクルトジュニアカップ
- 走り方教室 ●投げ方教室 ●野球教室
- 東京ヤクルトスワローズカップ争奪、東京23区少年軟式野球大会



最高齢96歳のヤクルトレディが勇退(湘南ヤクルト販売)

1963年に独自のヤクルトレディによる宅配システムを導入して以来、ヤクルトは女性の社会進出を支援してきました。3月に勇退した最高齢96歳のヤクルトレディ・小沢さんのヤクルトレディ歴は、実に56年。お別れ会では「すばらしいお客さまと出会えたことが私の財産」と語りました。



2018ヤクルト世界大会を開催(ヤクルト本社)

ヤクルトグループでは、お客さまに健康をお届けするヤクルトレディや社員を表彰し、グループの結束を強めることを目的に、約3年ごとに「ヤクルト世界大会」を開催しています。2018年は創始者代田 稔ゆかりの地、京都で開催され、総勢約2,700名が参加。未来に向け健康社会への貢献とグループの成長を確かめ合う場となりました。



(写真: ベトナムヤクルト)



(写真: 宇都宮ヤクルト販売)

ワークライフバランスに考慮しイキイキと働ける環境の整備

従業員一人ひとりが健康でイキイキと働ける環境づくりを推進しています。

- ヤクルト本社: 健康管理を積極的に推進している企業として「健康経営優良法人(ホワイト500)」に2年連続で認定



- 岩手ヤクルト工場: 若者の採用・育成に積極的な会社としてユースエール企業に認定

江ノ島海岸清掃活動に26年連続で参加(湘南化粧品工場)

本社、販売会社、工場では地域の清掃活動に積極的に参加しています。湘南化粧品工場では、江ノ島海岸で行われるゴミゼロクリーンキャンペーンに26年連続で参加。地域の方々との絆も深めています。



アジア・オセアニア

保健省と連携したピンクリボン活動 (ベトナムヤクルト)

ベトナムの国立がん病院が中心となったピンクリボン活動に、ベトナム保健省と連携して協力しています。ベトナムでは乳がんの認知度はいまだ低く、乳がん予防の啓発と検診を促進することは非常に重要です。2018年は1万人の乳がん検診や乳がん予防啓発活動に協力し、384百万ドン(約200万円)を寄付しました。



ポリテクニク※の成績優秀者に褒賞 (シンガポールヤクルト)

シンガポールは、世界的にも教育水準が高いことで知られていますが、その一方で成績優秀者の海外流出が問題となっています。そこでシンガポールヤクルトでは、地域に根差した企業として、卒業後の進路に地元企業を選択してほしいという思いを含め、ポリテクニクの成績優秀生徒に対して褒賞を授与しています。

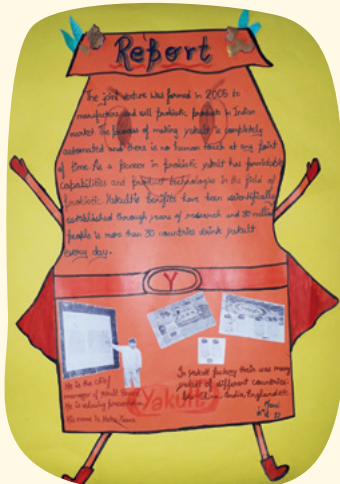
※ポリテクニク(Polytechnic)：職業に直結するような高等な専門知識を学べる実務教育を行う3年制の専門学校で、ディプロマ(資格証明書)が取得できる教育機関



社会科見学を兼ねた学習支援 (インドヤクルト)

デリーにてインド日本語教師会と協力し、日本語を学ぶインド人児童・生徒や教員総勢103名に対し、社会科見学を兼ねた学習支援を実施しました。

インドヤクルトの工場見学に招待し、平易な日本語で、事業や工場の役割、ヤクルト商品の効果、腸の健康の大切さなどについて説明しました。工場見学後、児童・生徒たちが壁新聞やレポートを制作してくれました。



スーパーラグビーへのスポンサーシップ (オーストラリアヤクルト)

地元ラグビーチーム・メルボルンレベリズズの試合のハーフタイムを利用して、子どもにラグビーの楽しさを知ってもらうためのミニラグビーゲームをサポートしています。2018年は80人の児童・生徒が参加しました。また、メルボルンレベリズズのヤクルトマッチデーの際に募金を行い、合計11,200オーストラリアドル(約90万円)を地元病院に寄付しました。



中古サッカーシューズ寄贈プロジェクト に協力(マレーシアヤクルト)

日本の中古サッカーシューズ約200足をマレーシアの小学校に寄贈する取り組みに2014年から参加しています。2018年は、雨季に甚大な洪水被害を受ける地域の小学校のうち、家庭の事情でサッカーシューズを購入できない子どもたちに寄贈しました。



貧困地域の小中学校での支援(広州ヤクルト)

中国の山間地や郊外の農村では、政府からの支援の行き届かない貧困地域が多く存在します。また、両親の出稼ぎにより取り残された「留守児童」と呼ばれる子どもがいます。そこで広州ヤクルトは2008年から深圳大学と連携し、貧困地域の小中学校での支援活動を行っています。2018年は深圳地区3校、広州地区3校で実施しました。



プラスチックストロー貼付の廃止 (マレーシアヤクルト、シンガポールヤクルト)

世界各地でプラスチックの使用を抑える動きが出てきています。マレーシア、シンガポールでは、プラスチックストローの貼付を廃止しました。

工場周辺での植林活動と 周辺農家の貧困対策(インドネシヤクルト)

インドネシアでは森林減少が深刻な問題になっています。また貧困も一因となり不法な伐採が多発し、森林の減少が河川の氾濫や土砂災害を起こす危険性があります。そこでインドネシヤクルトでは、工場周辺で植林活動と農家の貧困対策を行っています。2018年は苗木16,000本をNGOに、100基の井戸を周辺住民に寄贈しました。



Yakult forest “百万本植林活動” (中国ヤクルトグループ)

2015年から内モンゴル自治区における植林公益事業に参加し、砂漠環境の改善に貢献しています。2018年までの4年間で植樹した苗木は約8,000本で、平均生存率は67.85%です(NGO調べ)。



米州・欧州

法令を遵守し人権を尊重した採用活動 (アメリカヤクルト)

多民族国家であるアメリカにおいて、従業員採用時の「してもよい質問、してはいけない質問」リストを作成しています。信仰する宗教や出身地など業務上必要のない質問を禁止し、差別的な感覚を持たないように意識づけを行っています。

面接時にしてもよい質問、してはいけない質問(抜粋)

してもよい質問	項目	してはいけない質問
就業時間、日程、シフトについての質問 「日曜日に仕事をする ことが可能ですか?」	宗教	宗教についての質問／宗教 行事の日程を聞くこと
家族、親戚と一緒に 働くことを制限する会 社のポリシーの陳述	性別、 婚姻関係、 家族の有無	性別、婚姻関係、子ども、配 偶者の質問／妊娠、出産、 将来の妊娠の可能性の質問 「結婚する予定はありますか?」

地域の課題に寄り添った健康教室 (ブラジルヤクルト)

栄養士が高齢者支援施設、児童や青年支援団体、中等高等学校などへ出向いて健康教室を実施しています。参加者からは「貧しい家庭へ栄養情報を伝えるすばらしい企画です」「腸の健康の大切さがよくわかりました」などの声をいただいています。



孤児院の訪問(メキシコヤクルト)

メキシコの孤児院は政府の補助や寄付のみで運営されるケースが多く、施設が老朽化し食事も最低限になっています。そこでメキシコヤクルトは孤児院を訪問し健康づくりのお手伝いをする活動を行っており、2018年は47か所を108回訪問しました。



障がい者法定雇用目標を達成 (ブラジルヤクルト)

ブラジルでは、総従業員数に応じて2%~5%の障がい者を雇用することが義務づけられていますが、4割程度の企業しかその法定雇用率を満たしていません。ブラジルヤクルトでは、2016年に障がい者雇用委員会を発足。障がい者が働きやすいよう、バリアフリーや短時間勤務制度などを導入した結果、2018年には従業員数の5%を上回る132人の雇用を達成しました。



商品の包装資材をプラスチックフィルムから 紙に切り替え(ヨーロッパヤクルト)

ヨーロッパヤクルトでは、一部の国で商品の包装資材をプラスチックのシュリンクフィルムから紙のカートンパックに切り替えました。これによりプラスチックフィルムの使用量を年間約12,441kg削減できました。



人も地球も健康に

Yakult

株式会社ヤクルト本社

〒105-8660 東京都港区海岸1丁目10番30号

お問い合わせ先 広報室 CSR推進室
TEL (03) 6625-8971 (代表)
FAX (03) 6747-8009

ウェブサイトアドレス <https://www.yakult.co.jp>

公開 2019年10月

次回公開予定 2020年10月



ヤクルトCSRレポート
2019(64ページ)は
上記QRコードからご
覧いただけます。



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。



本冊子は、環境にやさしいベジタブルインキを使用し、有害な水を出さない水なし印刷方式を採用しています。